数理・データサイエンス・AI 教育プログラム 令和 6 年度・自己点検評価

教務委員会

令和 7 年 4 月 16 日

1　学内からの視点

1.1　プログラムの履修・修得状況

リテラシーレベルおよび応用基礎レベルを達成する本プログラムを構成する対応科目は、機械工学科・電気情報工学科・都市システム工学科および建築学科の各課程の必修科目、選択科目から構成されている。このため、本校の教育課程を 1 年次から履修する学生は、すべてが本プログラムの履修者となる。

1.2　学修成果

留学生を含む 4 年生（本プログラム開始初年度入学生）のうち、本プログラムを次年度に修了見込みの者は全体の 98.8%であり高い修得率が見込まれる。

1.3　学生の内容の理解度

本校において毎年実施している授業アンケートから、本プログラムを構成する主要な専門科目について、以下の項目を抜き出して評価した。

(ア)授業内容は理解しやすかったですか？

(イ)熱心に授業に取り組めましたか？

(ウ)授業満足度はどうでしたか？

その結果、ほぼすべての科目のアンケート結果の評価値が平均で 3.7～4.3（評価値 1～5 を受講者が選択するアンケート方式）となっている。本アンケート結果は、校内の全学生、全教員に対し公開されているほか、全教員に対し学生のコメントに対して授業方法改善に関する記入を求めており、学生のアンケート等を通じたフィードバックがなされる仕組みが存在している。

1.4　他の学生への推奨度

本プログラムは、本校の教育課程を履修する学生が本 MDASH プログラムの履修生ともなっていることから、アンケート等を通じた他学生への推奨度の調査は、行っていない。本校の教育課程全体に対する満足度調査は、5 年生の卒業時アンケートで実施しており、令和 6 年度卒業した 5 年生の本校に対する総合満足度は、満足とやや満足を合わせて 90%に達した。卒業予定者の満足度を把握する取り組みが機能している。

1.5　全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

本校の教育課程において、令和 4 年度には機械工学科・電気情報工学科・都市システム工学科および建築学科の教育課程において、MDASH プログラム（リテラシーレベル）の認定を受けている。令和 5 年度には、機械工学科・電気情報工学

科・都市システム工学科および建築学科の教育課程において、MDASH プログラム（応用基礎レベル）の認定を受けている。令和 6 年度に実施したカリキュラム改正においても、数理・データサイエンス・AI 教育にも関連するそれぞれの専門学科での専門科目と情報系分野の問題解決手法の利用および融合等に関する内容の充実を図っている。

2　学外からの視点

2.1　教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

本校では、外部有識者（産業界や近隣国立大学、中学校長、県の有識者等）を委員に含む有識者懇談会を毎年開催しており、本校からの就職状況、大学編入学先、志願者状況等の毎年の状況をお示しして、ご意見をお伺いする機会を設け、改善に向けた評価もいただいている。

また、令和 7 年度には、大学改革支援・学位授与機構による機関別認証評価においても、改善に向けた評価を受ける予定である。

2.2　産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

本校の点検評価委員会規程に基づき、おおむね 3 年に一回の周期で定期的に自己点検評価を行い、その結果を公表している。この過程において、卒業生・修了生進路先アンケート（3 年に一回実施・令和 6 年度実施）および 5 年後の卒業生・修了生アンケート（3 年に一回実施・令和 6 年度実施）を年度計画により定期的に実施している。このアンケート結果を踏まえて、教育プログラムの改善を行う仕組みが機能している。

3　その他

3.1　数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

本校では 1 年生全員に対し、データサイエンス入門、データサイエンス演習の科目を学科横断で開講しており、様々な分野における AI の活用事例や今後の展開を学ぶ機会を設けており、社会における AI の重要性や学ぶことの意義を意識づける取り組みを行っている。

3.2　内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

本校で毎年実施している授業評価アンケートの評価値を確認し、学生からのコメントに対し、教員が次年度改善すべき点を示し、内容や水準を維持、向上しつつ、分かりやすい授業に努めている。

以上